

白河市立白河第一小学校建設事業
基本設計業務委託プロポーザル審査結果講評

令和 7 年 1 月

白河市立白河第一小学校建設事業基本設計者選定審査委員会

1 審査結果

受託候補者 鈴木伸幸・深谷設計共同体
代表者 株式会社 鈴木伸幸建築事務所
代表取締役 鈴木聖志

次 点 辺見・鈴木設計共同企業体
代表者 有限会社 辺見設計
代表取締役 邊見啓明

2 審査概要

白河市立白河第一小学校建設事業基本設計業務委託プロポーザル（以下「プロポーザル」という。）募集要項及び審査基準に基づき、参加資格要件を満たす者を公募し、白河市立白河第一小学校建設事業基本設計者選定審査委員会（以下、「審査委員会」という。）による厳正かつ慎重な審査を経て、受託候補者及び次点を選定した。

3 審査委員会の委員構成

委員長	長澤 悟	東洋大学名誉教授 工学博士
副委員長	井上 賢二	白河市副市長
委員	長島 敏彦	一般財団法人ふくしま市町村支援機構 建築設備部長
委員	増子 国安	白河第一小学校運営協議会 会長
委員	鈴木 健一	白河市市長公室長
委員	鈴木 秀一	白河市建設部長
委員	佐藤 伸	白河市教育委員会事務局 教育部長

4 審査経過

外部有識者として長澤悟東洋大学名誉教授、長島敏彦一般財団法人ふくしま市町村支援機構建築設備部長及び増子国安白河第一小学校運営協議会会長の3名と、庁内から井上賢二副市長、鈴木健一市長公室長、鈴木秀一建設部長及び佐藤伸教育部長の4名の、計7名の委員からなる審査委員会を、3回にわたって開催し、慎重に審査を行った。

第1回審査委員会は、令和6年10月4日に開催し、審査委員会設置要領に従い、委員の互選により、委員長に長澤悟東洋大学名誉教授、副委員長に井上賢二副市長を選出した。その後、募集要項、審査基準及びスケジュール等を審議し、必要な修正を

加えて決定した。

選定にあたっては、各評価事項に即して意見交換を行った後、各自が評価点をつけ、その集計結果をもとにさらに議論を深め、最終的に合意の上で決定することを確認した。

第2回審査委員会は、令和6年12月19日に開催し、第一次審査を行った。応募は4者からあり、無作為にA～Dの名を付け、匿名で審査を行った。各委員は、事前に各者の取組体制説明書、協力事務所及び技術提案書等を読み込み、所定の評価事項ごとに仮評点を付けて審査委員会に臨んだ。

初めに事務局より、失格条項に照らして確認を行い、全者違反のないことが報告された。その後、各委員が順次、技術提案書等に対する全体的な感想等を述べ、選考を進めるに当たって評価すべき観点について共通理解を図った。

また、敷地に高低差があり、そのことを十分理解した上で審査することが重要との意見が出され、追加資料として、切土又は盛土部分がわかる南北の標準断面図と、同じく建物及び地盤レベルを示す配置・平面図を次回審査委員会に提出してもらうこととした。

その後、各者の実施体制や実施方針、提案内容について審議を行い、理解を深めた後、第一次審査では5者程度を選定するという募集要項に沿い、幅広く提案を聞くために応募のあった全者をヒアリング対象者とするのを全会一致で決定した。

第3回審査委員会は令和7年1月15日に開催した。企画提案書と全者から提出のあった追加資料をもとに第二次審査を実施した。審査は、各者15分のプレゼンテーションの後、20分間のヒアリングを順次行った。

その後、選定のための審議に移った。はじめに全員が順次プレゼンテーション及びヒアリング全体を通じての感想を述べた後、各案について評価項目を踏まえ、提案内容の評価できる点、課題や問題点、実現可能性、ヒアリングを通じた応答の的確性等について意見交換を行った。

議論を尽くしたところで、各委員は各評価項目について評価点を確定して提出し、事務局で集計を行った。その結果は次のとおりである。

	最高点を付けた 委員の数	評価点合計 (委員7名の合計得点)
A者	6名	695点
B者	0名	566点
C者	1名	646点
D者	0名	456点

これをもとに、各者の提案内容についてさらに議論を深め、検討を重ねた結果、最終的に受託候補者をA者、次点をC者とすることを全会一致で決定した。

受託候補者 A者（ 鈴木伸幸・深谷設計共同体 ）

次 点 C者（ 辺見・鈴木設計共同企業体 ）

5 審査講評

審査においては、白河第一小学校建設事業基本構想に書かれた内容についての理解度、提案課題に対する提案の的確性・妥当性、実施体制、実現性、またヒアリングでの説明の的確性等について評価を行った。求めた技術提案の課題に即して、特に次の点に着目して議論を行った。

- (1) 建替え計画として、建替え手順の妥当性、建設期間中の教育環境・運動施設・安全の確保。特に屋外運動場の確保。
- (2) 敷地の高低差に対し、切土と盛土部分のバランスを考慮した安全かつ建設費の抑制、レベル差を生かした豊かな環境づくりとバリアフリー化、屋外運動場と校舎の一体感のある空間構成。
- (3) 工程計画として、学校の年間スケジュールや引越し期間への配慮。
- (4) 施設の配置及び構成として、歩車動線等を含めた安全、便利、人を迎え入れる豊かなアプローチ、一体感のある建物配置と景観構成、学校及び地域活動の場となる屋外運動場の面積・形状の確保、災害時の避難者動線、教育機能の充実とともに生活の場としての快適性、活気を生み出す変化のある空間構成。
- (5) 敷地周辺環境への配慮として、西側の急傾斜特別警戒区域、急傾斜警戒区域に対する安全確保、豊かな自然環境や既存の施設環境の生かし方。
- (6) ライフサイクルコスト削減として、造成、建設、外構整備を含めた建設費の見込み、ランニングコストや維持管理方法、建設事業コストの縮減方法。
- (7) 地域に開かれた学校施設として、地域利用施設の想定、管理区分の明確さと利用しやすさ、災害時の安全性確保と防災機能。
- (8) ヒアリングでの質疑応答を通じて、基本構想の理解度、計画の進め方と生かし方。
- (9) 環境負荷軽減のための、ZEB化に対する目標設定と具体的な提案、木材の有効活用。
- (10) 業務遂行能力について、実施体制、JVの場合の役割分担等の信頼性。

以上の観点について、白河第一小学校が地域とともに築き上げてきた歴史・文化・教育環境、教育活動や学校環境の特色、学校建築史に残る学校施設の改築であること等、学校のレガシーを活かした提案が求められた。

<総評>

審査対象となった応募者4者は、いずれも白河第一小学校の歴史、環境、教育実績についてよく理解され、単なる学校建築の設計ということを超えて、それぞれ思いをもって提案されている様子がうかがえる。また質疑応答についても、熱意を持って真摯に対応して頂いていることがよく感じられる。

特にA者、B者、C者は、現在の施設が建設当時に建築界の注目を浴び、特色ある空間を備えていることに着目して提案に生かそうとしていることは評価できる。

4者の提案は、敷地造成方法、建替え工程を考慮してそれぞれの対案となっており、特に配置については、大きく校舎を敷地の北側に配置し、屋外運動場を南側とする案（A者、B者）と、校舎を南側に配置し、屋外運動場を北側とする案（C者、D者）に分かれた。敷地は北下がりであり、屋外運動場への校舎の日影、教室との一体感が議論された。

学校の平面計画については、各者独自の提案が見られ、教室まわりの構成や学年配置、図書館の位置づけ、特別教室の捉え方、地域利用ゾーンの設定、児童クラブの配置、それらを結ぶ動線等が、評価された。

構造については、RC造と木造の混構造（A者、D者）、木造（B者、C者）があり、環境負荷軽減のためのZEB化を含め、技術的な課題に対する考え方の提示だけでなく、その実現可能性についても検討がなされているかが評価された。

<個別評>

<A者>

現状の施設の特長、問題点、学校施設計画の今日的な目標等について説得力ある説明がなされ、それに対する課題設定と実現に向けた考え方が具体的に示されている。

屋外運動場を校舎の南に配置し、さらに校舎敷地を盛土して一体感を確保し、その土は月見坂からアプローチを円滑にするための切土を充てるなど、建築計画と建設技術を総合的に捉え、コストにも配慮した提案となっている。また校舎、体育館の完成時期を夏休みに引越しできる時期にするなど、学校運営への配慮が見られる。

現校舎の骨格を踏襲した中庭を囲む校舎配置であるが、教室前のオープンスペースや通路を全て中庭側に向けることで、既存校舎にはない一体感のある回遊動線を実現している。さらに中庭に面して、昇降口に近い位置に図書館、一方に発表の場となる音楽室と屋外ステージを設け、学びや学校活動の中心を生み出している。

建替え手順としては、学級数の減少に合わせて、南校舎を残して北側に新校舎を一度に建設することで、工事中の教育環境と安全を確保し、完成後は現状より広い屋外運動場・校庭を確保できる。

計画面での的確な課題の提示とともに、木材活用やZEB Ready化等の技術的な課題についても、コスト面を含め無理なく実現するための具体的な検討がなされており、

総合的に高く評価できる。

<B 者>

白河第一小学校とのこれまでの密な関わりをもとに、その設計に対する思いの深さが伝わる提案とプレゼンテーションであった。現校舎の建築的価値、学校が作り上げてきた教育環境の理解の上に、細部にわたって豊かなアイデアが示されている。

配置は A 者と同じく現校舎の南棟北側に新校舎を配置するもので、校舎と屋外運動場の一体感、屋外運動場への日影の影響、将来の屋外運動場面積の拡大等について共通の長所を持っている。ただ、校舎敷地のレベルが屋外運動場より 1m 低く設定されていること、屋内運動場が 3m 高く設定され、屋外運動場との一体的な活用、災害時の避難場所としての利用の点で問題が感じられる。

校舎は、A 者以上に広く解放感のある中庭を囲む配置で、廊下が中庭を巡る回遊動線により一体感がある。1 階昇降口に面して学校の中心をなす図書館・メディアセンターを配置し、大階段を上ると中庭に達する空間構成は魅力的である。学校を構成する各教室、スペースごとにイメージが描かれ、屋外環境についても地域全体の中での位置づけとともに豊かなアイデアがうかがえる。

一方、教室の学年配置が平面形にはめ込んだ感があり、南道路からの校内車両動線など計画全体のまとまりがやや弱い。

また木造化、ZEB Ready 化等の技術的な点について課題は示されているが、その具体化に向けた説明がやや不足し、一般論に止まっている感がある。

<C 者>

既存校舎の建築的価値を十分に認めた上で、その空間の特色を踏襲するだけではなく、価値を読み替え、設計者として「計画に当たって大事にしたい点」をまとめ、新たな提案を積極的に行っており、意欲が感じられる。

工事期間の最小限化、周辺道路との関わりによる顔の見える学校づくりを目標として、現在の屋外運動場に新校舎を配置している。校舎は屋外運動場の形状を生かして、共楽の庭と呼ぶ中庭を囲んで教室群と屋内運動場を配置し、回遊動線により一体感のある計画としている。教室は学年ごとにまとめ、1、2 階に雁行配置している。

特筆できるのは校舎、体育館を含めオール木造の提案がなされ、地元工務店で施工でき、工費縮減を図る構法が提案されていることである。地場の石材の活用と合わせ、屋内外に子どもたち同士、子どもと地域の交流スペースとして、豊かで特色ある空間が生み出されることが期待される。

設備、環境面についても設計目標、内容がよく記述されている。地域性を踏まえた観点が示されるとさらによかった。

建替え工事中の教育環境の確保について、はじめに現校舎の北棟の一部を撤去し、第二グラウンドを生かして屋外運動スペースを確保している。造成計画の中で、周辺道路とのレベル差等、可能性についてややわかりにくいところがある。

また、屋外運動場が校舎敷地より 2m 低く、面積を確保しようとした時に建物による日影の影響が心配されること、校舎、特に教室での活動面でも視覚的にも切り離されて、一体の学校生活空間となりにくいことが懸念される。

<D 者>

「人と人との交流や触れ合いを大切にする学校」を理念として、「白河らしい学校」「学校らしい学校」「学校らしくない学校」を掲げて提案がまとめられ、生涯学習の中心地、市の歴史、文化を生かすまちづくりの核となる場として白河第一小学校を捉えようとしていることは評価できる。ただ白河第一小学校らしさについての具体的な提案が欲しかった。

建物配置は現在の屋外運動場に、中折れの中廊下一文字型の教室棟、特別教室棟、屋内運動場を渡り廊下で繋ぐものである。一体感が感じられず、校舎全体が通過動線となっており、学びを広げ、学校全体を学びの場とするための提案が求められる。

建て替え手順で建設工事中の屋外運動場が十分に確保されず、必要な時には別途公共施設を利用するとしていること、及び急傾斜警戒区域にかかって屋内運動場を配置していることについて、未調査だったという回答があったことは問題である。

防災拠点、長寿命化、工費縮減、環境負荷への対応等、課題は網羅的に挙げられているが、記述が一般論に止まり、本計画に即した提案になっていないのが残念である。